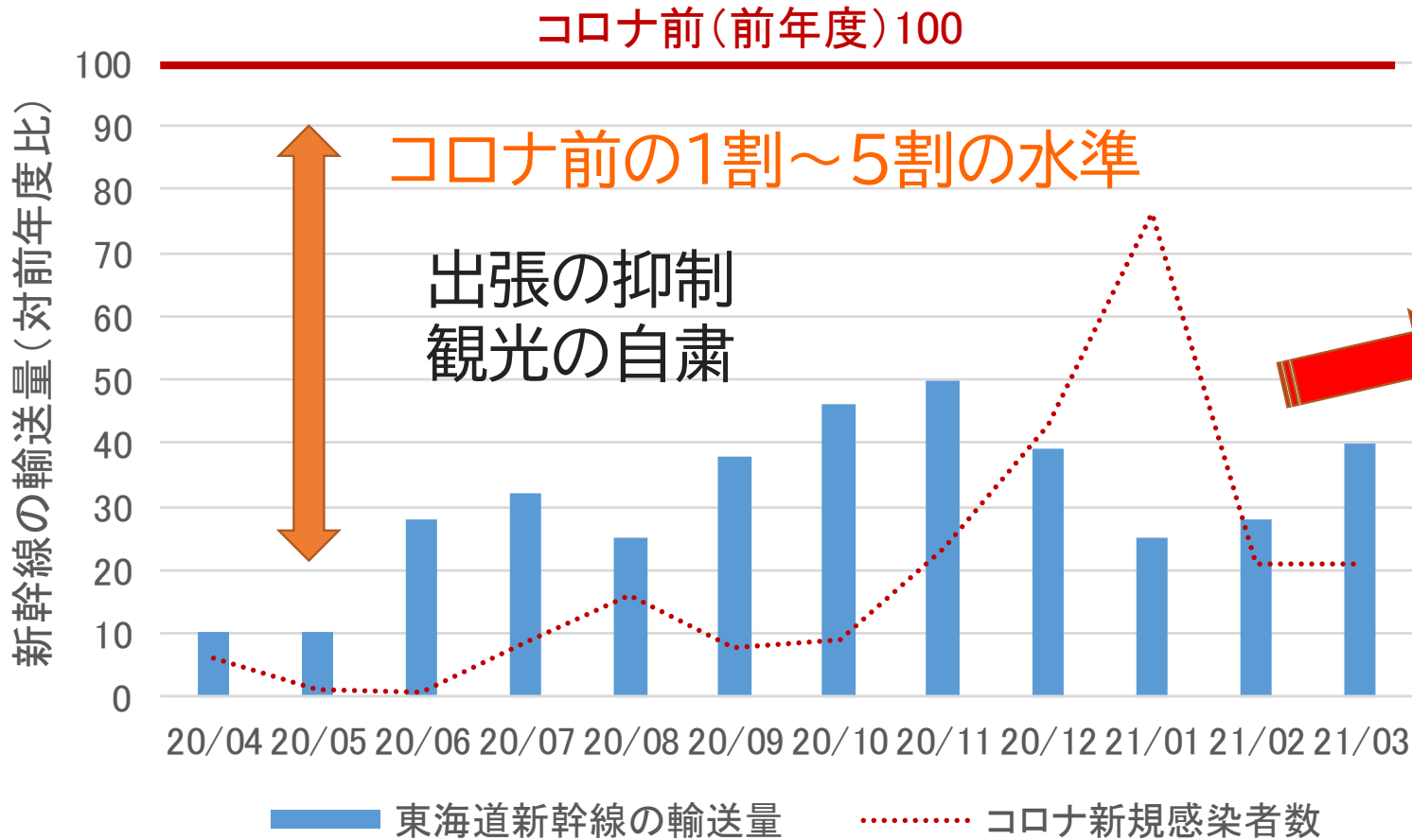


『新型コロナウイルス感染症が出張需要に 及ぼす影響と出張の価値に関する研究』 (安達研究員)へのコメント

日本大学理工学部土木工学科
金子雄一郎

新型コロナウイルス感染拡大の出張への影響

□ 東海道新幹線の輸送量の推移



今後どのくらい回復
するのか？

- ・ 観光はいずれ回復
- ・ 出張はWeb会議による代替が進み、**真に必要な出張のみが残る？**

- ・ このような問いに答えてくれるのか本研究
- ・ 時宜を得た社会的意義がある研究

出張に関する研究

□出張行動

- ✓ 安達研究員の発表資料の通り
- ✓ 出張手段の選択, TV会議との選択など

□業務交通

- ✓ 塚井・奥村(1999, 2001他), 中村(2001)など
- ✓ 業務交通と通信の関係について, 「代替」, 「補完」, 「相乗」が議論
- ✓ 距離, コスト, 都市の中枢性などが関係
- ✓ フェイス・ツー・フェイスの価値(人間関係の形成, 情報伝達の複雑性)

本研究の特長

□ 企業における出張の構造を整理

- ✓ 出張の意思決定のプロセスを明確化
- ✓ 出張頻度とコスト(=出張コストと業務逸失コスト)の関係を明示

□ 企業の出張戦略, 現況, 今後の需要をインタビューで把握

- ✓ 感染リスクが企業の出張戦略に大きく影響
- ✓ 顧客対応の出張はコロナ下でも最低限行うなど, 出張目的間で差異
- ✓ コロナ経験により出張頻度と業務逸失コストの関係が変化する可能性

□ 以上よりコロナ下における企業の出張の構造の解明に寄与

コメント(質問)

- **業務逸失コスト**(顧客の信頼, 営業情報の逸失)は分かりやすい概念ですが, 定量化の際にどのような指標が適切でしょうか? 《p.12》
- **出張を大幅に削減した企業**は, Web会議で代替し, **業務上の問題**(逸失コスト)は発生しなかったということでしょうか? 《p.26》
- コロナ終息後の**出張意向の頻度がコロナ前より少ない企業**(16社)は, どのような業種, 職種(回答者)でしょうか? 《p.29》

コメント(質問)

□ 本研究のゴールはどこを目指されているのでしょうか？

- ✓ 出張の構造や意思決定プロセスのモデル化
→ 研究で得られた知見の活用について
- ✓ 都市間(都市内)交通需要への影響
→ 精緻な予測は無理でも, 大まかな傾向は提示できる可能性
- ✓ 出張の特性を踏まえた新たな旅客サービス提供への示唆
→ 移動中の価値向上

コメント

- DXや産業構造の転換などの潮流の中で，“出張”を捉える必要があるのではないのでしょうか？
- ✓ コロナの影響がなくても、業務逸失コストが低い出張は遠からず減少（コロナを契機に早まった？）
- ✓ 製造業のソフト化による出張内容の変化の可能性
（社内出張が減少する一方、新規顧客の獲得にはフェイス・ツー・フェイスが重視される？）